

よししまじんじゃほんでん  
葭島神社本殿

種 別	県指定文化財 建造物
指定年月日	昭和 44 年 2 月 18 日
所 在 地	大川町（葭島神社）

葭島神社は、元々「<sup>ごこくじ</sup>五穀寺」と称し、能登の<sup>せきどうさんてんびょうじ</sup>石動山天平寺の僧・<sup>たかくらぼうぎょうぞういんくうせい</sup>高倉坊行蔵院空清が、前田利常に小松に招かれ、創建した山伏寺であった。

初めは梯川そばに社堂を造営したが、洪水で大破したため、正保元年（1644 年）に現在の位置に社堂が造営された。その際、小松城内の<sup>よししま</sup>葭島<sup>(1)</sup>にあった城の守護神・稲荷大明神を合祀し、「小松稲荷五穀寺」と称した。明治 14 年（1881）に、稲荷大明神の旧鎮座地名に因んで「葭島神社」と改称された。その後、明治 20 年に城内にあった愛宕社を、同 41 年に利常を祀る能美神社を合祀している。

本殿は江戸時代後半の建造と推定される。屋根が曲線的に前面に伸びて向拝となる<sup>ながれづくり</sup>流造という建築様式で、正面の柱間が3間の<sup>さんけんしゃながれづくり</sup>三間社流造の本殿である。覆屋に覆われているため、建てられた当時の姿をよく残している。また欄間や各所の彫刻も精巧であり、建築とよく調和したものである。

- (1) 葭島：小松城内の島の名。小松城は堀の中に8つの島が配置される構造となっており、葭島はその一つで、花園のほか茶室をもつ御殿が存在した。建物に使用された飾り金具などは、百工比照として尊経閣文庫に保存されている。

